

中国人学習者の日本語受身文の誤用研究

(要約)

広島大学大学院文学研究科

博士課程後期人文学専攻

学生番号： D134851

氏 名： 史 兆紅

本研究は、第二言語習得(日本語学習)における中間言語の一部である誤用について、『YUK タグ付き中国語話者日本語学習者作文コーパス』Ver.3 から抽出した日本語受身誤用文データベースを対象に、中国人学習者の日本語受身文の誤用実態を調査した。

研究の目的は、対照分析と誤用分析を通して、中国人学習者の日本語受身文学習における問題点を究明することである。研究の意義は、中国における日本語受身文の誤用形態を究明し、誤用の成因を分析することにより、最終的に教育実践の理論的な枠組みを構築することである。

本論文は序論、本論の三部分と結論という五大部分からなる。序論では、まず、誤用、誤用研究についての概念や研究理論、先行研究などを分析し、それから、日本語受身文の誤用先行研究、及びその問題点について論じた。最後に、本研究の内容、対象、方法などを紹介したうえで、本研究の誤用調査で用いる四種の誤用分類法を説明した。本論では、日本語受身助動詞の誤用分析、日本語受身動詞の使用分析、日本語受身構造の誤用分析に分けて、それぞれの誤用の分布状況を調査し、学習歴別の調査と総合の調査を合わせて、誤用の実態とその成因を分析した。結論では、全体のまとめをしてから、誤用対策として、中国人学習者を対象とする日本語受身文の教育について、学習難点、学習順序、学習指導などの面から論じた。